

まんが時評

倉林 順一

安中在住の運営委員、萩原さんが体調を崩され、しばらくの間、会議に現れなかった。めまいがするとか。年も召されているのでたいそう心配されたが、7月末のわいわいフォーラムに現れた。私が「もう先生には会えないかもしれないと思いました」と言うと、「それは失礼な言い方だ」と心配を一蹴して一安心。それからは「病み上がり」の姿は微塵もなく、よく語った。

しゃべりまくった話の中でもっとも印象的だったのがこれまで氏が触れたことのないクラシック音楽のこと。「最近、



モーツァルトを聴いている。」とおっしゃる。「聴いて楽しんでいる訳でもない。」「モーツァルトを聴くとめまいがなおる。」「モーツァルトでないとだめなんだ。」「女房も一緒に聴いて二人で寝てしまう。」と。

最近になってこの話を詳しく聞いた。「モーツァルトは昔から好きだったのですか?」「きっかけは?」と。すると「具合が悪くなった時に岡田さんがCDを渡して『これを聴くといい』と言った。あてがわれたもので、曲名も知らない。」「もともとクラシック音楽を聴く柄じゃあない。」「でもモーツァルトを聴くとほっとする。」「めまいの薬は飲まないがモーツァルトは聴き続けている」と淡々と語ってくれた。

体調不良の奥さんの介護に追われる日々が続いた萩原さんに休息の時間を提供したのが友人が仲介したモーツァルトだったというのが真相らしい。

萩原さんにはいつまでも元気でいてほしい。変貌を遂げつつあるフォーラムの指針を示してほしい、と願っているのは私だけではない。



何も
考えずに
ひたすら
聴いて
ぶんなさい